

## 2017年度 イラン国別研修「地方自治体における防災能力強化」

- Capacity Strengthening the Capacities of Disaster Management in Municipalities of Iran

研修期間：2017年10月2日～10月27日

研修場所：神戸市・兵庫県内、熊本市、益城町

研修内容：イラン国の大・中都市における、適切な地域防災計画の策定方法習得に関する講義/視察

参加研修員：イラン国より11名(内務省都市地方行政機構ならびに地方自治体の防災担当職員)



研修最終日：閉講式にて

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)からの委託を受け、兵庫県立大学 本荘特任教授のご協力のもと、イラン国国別研修「地方自治体における防災能力強化」を実施しました。本研修は、日本における地域防災計画を様々な観点から紹介し、イランにおける大・中都市において、各種災害に対する適切な地域防災計画を策定・改善するため、地方自治体の政策決定者レベルの能力が向上することを目的としています。そのため、人口20万人以上の大・中都市から副市長レベルの防災担当職員を招へいし、延べ4週間にわたり神戸市内を中心に研修を行いました。

研修員達は、まず大学や研究機関の研究者から、日本の防災対策や地域防災計画についての理論的な講義を受けたあと、危機管理室や消防局、水道局など神戸市の各部局における実務レベルの取組みについても学びました。さらにイラン国で特に重要な災害として、地震災害と洪水災害を取り上げ、実際の被害状況とその後の対策について学ぶため、熊本県益城町と熊本市を視察するなど、短い期間ではありましたが、大変充実した研修となりました。

また、実際の地域防災計画の策定方法を学ぶため、週に1日ずつ設けられたモデルプラン作成ワークショップ(以下WS)の時間には、参加者の所属都市の中から2つのモデル都市を選定し、その都市の地域防災計画のモデルプランを作成しました。



### 研修を振り返って～



KICでの講義風景。積極的に質問する姿が目立った

遠い中東の国というイメージが強く、日本との結びつきは少ないように思えるイランですが、実は日本と同じ災害多発国です。2003年のバム地震をはじめ、10数年毎に数万人単位の犠牲者を出す地震が発生する一方、洪水災害も頻繁に発生するなど、常に自然災害の脅威にさらされています。また、日本と同様に災害時の安全管理は自治体の管轄で実施されるため、自治体レベルでの防災計画の策定や非常時の指揮系統、救助体制が特に課題となっています。

研修の前半では、日本の地域防災計画に対する理解を深めてもらうため、JICA 関西での座学を中心に講義を実施しました。講義にあたっては、京都大学防災研究所など大学や研究機関の研究者の方々にお世話になりました。また、具体的事例として神戸市の地域防災計画を取り上げ、危機管理室や消防局、水道局、市長室広報部などの各部局の取組みについて担当者からお話を伺いました。座学中心の講義でしたが、集中力がとぎれることなく、どの授業でも積極的に質問をされていました。



中央消防署の視察では特殊スーツの試着なども

また、研修期間中に研修員から視察先追加の要望があり、三木市の兵庫県広域防災センターや神戸市中央消防署にも視察をお願いしました。今回の研修員は消防出身の方が多く、特に中央消防署の見学は大変好評でした。

研修後半には、イラン側から要望のあった地震と洪水の災害をとりあげ、午前中は大学や研究機関の研究者による理論的な講義、午後は神戸市役所の担当部局による実践的な講義を受けました。地震対策と洪水対策について理論と実務の両面から学ぶことで、「自国の防災で利用できる」との声が聞かれました。また、講義だけでなく実際の被災地での状況や取り組みを視察するため、熊本県益城町（地震災害の被災地）と熊本市（洪水災害の被災地）におもむき、各自治体の担当者からお話を聞きました。特に熊本市では自治体によるソフト面の取組みと国交省によるハード面の取り組みを視察することができ、有益な学びにつながりました。

各講義や視察で学んだことを地域防災計画に活かすため、週一回のWSを計4回行い、参加者の所属都市2市を対象に地域防災計画のモデルプランを作成しました。このモデルプラン作成WSは、計画の策定プロセスを参加者に体験してもらう目的で、神戸市の復興計画策定の際に行ったWSの手法を使って実施しました。市民の声を効果的に取り込むことのできるWS形式は、研修員からも「自国に帰ったらぜひ実施してみたい」と大変好評でした。作成したモデルプランは、研修最終日の発表会でグループごとに発表し、講師陣からも「大変意欲的で包括的なプラン」と評価を受けました。

今回、日本の地域防災計画を学びに来た研修員11名は、イラン内務省ならびに地方自治体の幹部職員でした。そういった職務に対する責任感からか、限られた時間の中で自国の為にできる限りの内容を学び持ち帰ろうとする意欲的な研修参加姿勢がとても印象的でした。



被災地の視察風景：熊本県益城町にて

研修員帰国直後の11月12日、イランでは、イラクとの国境付近のケルマンシャーという地域でM7.3の地震が起きました。帰国研修員の中には早速災害対応の業務にあっている人もいます。

今回の地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、研修員達が日本の研修で学んだことが少しでも現地の災害対応に活かされることを願っています。

研修担当：石川 裕美

---

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

講義/視察先：兵庫県立大学、人と防災未来センター、京都大学防災研究所、同志社大学、神戸大学都市安全研究センター、防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター、神戸市（市長室広報部、消防局、水道局、危機管理室、建設局）、神戸すまいまちづくり公社、熊本県益城町役場、熊本市危機管理総室、国土交通省九州地方整備局 熊本河川道路事務所、神戸地方気象台、防災インターナショナル

【順不同、敬称略】

---